

平成 24 年度 シラバス	学年・期間・区分	5 年次 ・ 後期 ・ B 群	
	対象学科・専攻	土木工学科	
建 築 学 概 論 (General Architecture)	担当教員	鑪 周作 (Tatara, Syusaku)	
	教員室	都市環境デザイン工学科棟 2 階 非常勤講師室 (TEL : 42-9125)	
	E-Mail	tatara@po.synapse.ne.jp	
教育形態/単位の種別/単位数	講義 / 学修単位 [講義 I] / 1 単位		
週あたりの学習時間と回数	[授業 (100 分) + 自学自習 (80 分)] × 15 回		
[本科目の目標] 土木と建築は同じ建設工学の中にある。力学・構造・材料・施工等の部分で共通するものが多いが、細部ではやや異なる点があり、その相違点を理解することが必要である。また建築には、環境計画設備 (室内気候・音響等) や意匠設計計画等独自の分野がある。同じ業務部門においてもこの分野の学習は、重要な意味のあることを認識させる。			
[本科目の位置付け] 土木と建築は同じ業務部門で共存することが多く、本科目の内容は、土木技術者として身につけて欲しい建築学に関する基礎知識の学習をする。			
[学習上の留意点] 土木工学科の課程で「建築」をどの程度の学習にするか、建築の専門分野は極めて広くこれを建築概論の形で土木工学科の 1 科目として、建築全般を短時間での学習では、なかなか難しい。力学・材料・施工等は「概論」的な学習に留め、建築環境計画や建築意匠設計設備等、建築専門的要素を詳細な学習と主体的自学自習として、単元毎内容別の課題レポート及び製図課題提出を求める。			
[授業の内容]			
授 業 項 目	時限数	授業項目に対する達成目標	予習の内容
1) 総論	2	<input type="checkbox"/> 建築学科の専門教育の内容 (科目) をとらえ方及び同時に建築の概要を理解できる。	講義で使用するテキストで次回講義予定の項目を熟読する。
2) 歴史	2	<input type="checkbox"/> 建築は芸術としての一面もあることを認識し、科学技術のとらえ方及び建築の発達の歴史を理解し、これからの建築の方向性を考えることができる。	
3) 計画	2	<input type="checkbox"/> 建築設. 計に入る前の段階である計画性の重要性について理解できる。	
4) 法規	2	<input type="checkbox"/> 建築関係法規の設計との関わりを学習できる。	
5) 一般構造	2	<input type="checkbox"/> 建築の一般構造の概要を理解できる。	
—後期中間試験—		授業項目 1~5・10 についての達成度を確認する。	
6) 材料	2	<input type="checkbox"/> 建築に使用される材料について理解できる。	
7) 環境設備	2	<input type="checkbox"/> 環境工学 (室内環境計画) を基本にした空気調和計画・給排水その他設備の概要を理解できる。	
8) 施工・積算	2	<input type="checkbox"/> 建築の施工管理、及び積算について理解できる。	
9) 力学	3	<input type="checkbox"/> 荷重・外力・応力の種類とその性質、構造材の力学的性質を理解できる。	
10) 設計製図・プランニング	9	<input type="checkbox"/> 住宅の平面計画 (プランニング) を学習し、設計課題に基づきエスキス作成し提出する。	
—後期期末試験—		授業項目 1~10 についての達成度を確認する。	
試験答案の返却・解説	2	試験において間違った部分を理解できる。	
[教科書] 図解テキスト 基本建築学 (単行本) 上杉 啓・真鍋恒博・洪 忠憲・木村儀一・河村壮一 著 彰国社			
[参考書・補助教材]			
[成績評価の基準] 中間および期末試験成績 (70%) + レポート (30%) - 授業態度 (10%) ただし、中間および期末考査成績は、各定期考査試験点の平均。授業項目 1~7 についての達成度を評価する			
[本科 (準学士課程) の学習・教育目標との関連] 3-c			
[教育プログラムの学習・教育目標との関連] 1-3			
[JABEE との関連] (d) (2) a)			

Memo
